

2025年3月7日

当社から派遣された第66次南極観測隊員が出発しました

MOLマリン&エンジニアリング株式会社（社長：菊地 和彦、本社：東京都港区、以下MOLMEC）海洋事業部に属する観測技術員中尾眞子が、第66次南極地域観測隊の夏隊隊員としてオーストラリア・フリーマントルにて南極観測船「しらせ」に乗船し、2月26日（水）に同港を出航しました。

本人は昨年11月に派遣が決定して(註)以降、準備や訓練を重ねてきました。この観測隊の重点研究観測テーマは「過去と現在の南極から探る将来の地球環境システム」です。本人は約40日間本船に乗船し、氷海域での海洋観測作業に従事します。

商船三井グループはサステナビリティ経営の一つとして、海洋・地球環境の保全を掲げています。今回の南極観測隊への当社社員の参加を通じ、国際的な問題となっている海水面の上昇や気候システム変動の解明の一助になることを期待しています。



成田空港出発時の様子
(提供：第66次南極地域観測隊 吉村将希隊員)



フリーマントルで南極への出航を待つ
本船「しらせ」

< 第66次南極地域観測隊情報 >

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所

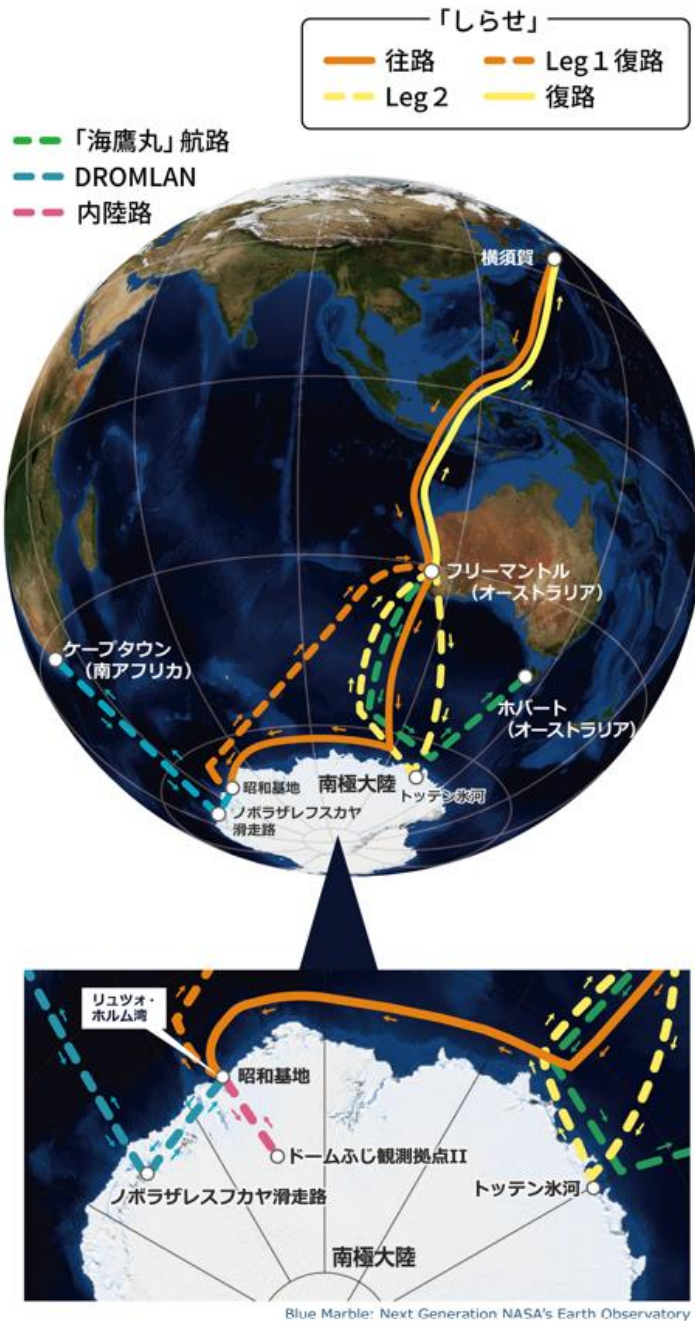
- ・ [第66次南極地域観測の基本的な考え方と行動計画案、並びに隊員等の決定について](#)
- ・ [重点研究観測 | 観測課題 | 南極観測](#)

文部科学省

- ・ [第66次南極地域観測隊員及び同行者の追加決定について：文部科学省](#)

第66次南極地域観測隊の行動経路

第66次南極地域観測隊では、南極観測船「しらせ」での本隊の行動、「DROMLAN」での先遣隊、「海鷹丸」での別動隊の船上観測を予定しています。



南極観測船「しらせ」
氷厚約1.5mの平坦氷海域を3ノット(時速約5km)で連続砕氷航行が可能な砕氷船です。



「海鷹丸」
東京海洋大学の練習船です。



DROMLAN(ドロマラン)
ドロイングモードランド航空網 (Dronning Maud Land Air Network) 南極のドロイングモードランド地域で観測を実施する11カ国が協力して利用する航空網です。



雪上車
大陸氷床における人員や物資の輸送に使用します。

(提供：国立極地研究所)

※ 中尾隊員はLeg2(上記経路図の黄色の破線分)に参加。



CTD-RMS観測:採水システム付き水温・塩分・圧力による深度測定装置による観測の様子
(提供:国立極地研究所)



ROV(Remotely Operated Vehicle:遠隔操作型有索無人探査機)による観測の様子
(提供:国立極地研究所)

註 2024年11月6日付けニュースリリース

[当社社員が第66次南極地域観測隊の隊員に決定しました](#)

【隊員の略歴】中尾 眞子 (なかお まこ)

2022年にMOLMEC入社。海洋研究開発機構(JAMSTEC)の学術研究船「白鳳丸」に観測技術員として乗船し、船底固定観測装置の運用・保守を担当。

以上